

## 情報システム・バックアップオフィス研究会 第12回 議事録

(敬称略)

### 1. 会合概要

- ・ 開催日 : 2009年11月5日(木) 16:00~18:00
- ・ 開催場所 : BCAO 虎ノ門事務所 会議室
- ・ 進行役 : 大塚 純一 日本アイ・ピー・エム(座長)
- ・ 議事録作成 : 田畑様(日本アイ・ピー・エム)
- ・ 出席者数 : 13名
- ・ 資料 : 第12回 研究会 アジェンダ  
ITBO用語  
アンケート用紙 - 09年度活動計画案について - (当日配布)  
クラウド・コンピューティングについてのご紹介

### 2. 議事内容

#### (1) 事務局報告関連

##### 研究会メンバー

- 入会者 : 1名(玉置様(中小企業診断士 玉置事務所))
- 登録済研究会メンバー数 : 42名
- 座長・副座長 : 3名

---

研究会メンバー 計 : 46名

##### 今回初参加のメンバー挨拶

- 伊藤 高信 様 TeleContinuity
- 伊藤 豊 様 中部日本電気ソフトウェア㈱

##### 前回議事録(略)

プレゼンいただいた細坪事務局長様の確認が取れ次第、配布させていただきます。

### 10月のイベント

#### 研究会発表会

日時: 10月10日(土) 14:00~17:30

場所: 国土館大学

内容:

- 「新型インフルエンザに関するシンポジウム」
- 「企業・組織が考えるべき新型インフルエンザ対策」
- 「新型インフルエンザに備える: 家庭と学校の現場から」
- 「新型・強毒性インフルエンザから如何に社会を守るか」

## 第2回BCA0関西講習会

日時：10月10日（土）14：00～17：30

場所：

内容

「新型インフルエンザについての最新情報と企業での防疫対策」

「新型インフルエンザに対する事業継続計画のポイント」

「事業継続推進機構の活動」

「関西支部・関西地域勉強会の活動」

## 危機管理産業展（Riscon Tokyo 2009）

日時：10月21日（水）～23日（金）

場所：東京ビックサイト

## 第5回月例講習会&意見交換会

日時：10月28日（水）

場所：駿河大学

内容：

「BCの生い立ち ディザスターリカバリーからBC」

「事業継続と情報システムのディザスターリカバリー（災害対策）」

「新型インフルエンザの労務対策と対応事例」

US-DHS より BC に関する認定について、以下 3 つのスタンダードのいずれかに基づくことが条件という発表が成された。

NFPA16000

BS25999

ASIS American National Standard

米ホワイトハウスよりセキュリティ見直しがオバマ大統領より指示されている。

IT 経験者以外の方への BC 関連用語の説明を実施

## 今後の予定

### 2009年度第2回BCA0認定事業継続初級管理者試験

日時：12月20日（日）

場所：中央大学駿河台記念館

定員：230名

申込期限：11月19日（木）

## 連絡事項

本日発表予定の坂本様（日本電気株式会社）は、事情によりご欠席。

忘年会（親睦会）について関山様よりご連絡予定。出欠連絡は、11月13日（金）までに連絡。

虎ノ門オフィスの賃貸契約が11月で満了となるため、12月以降の開催場所は、決定次第ご連絡を予定。

## （2）ITBO用語の整理について：衣笠様（モア・イフェクト）

### ・『情報セキュリティ』

JISQ27002、1992「OECD 情報セキュリティに関する調査」より抜粋。

「正確な情報を必要な人だけに必要なときにはいつでも提供できる」という観点のポイントであると思われる。

「可用性」については、用語としてはIT面のみを表されているように見えるが、BCという概念まで広げて含める必要がある。

### ・『事業継続』

「BS25999-2/3 日本語訳」<sub>1</sub>、「BCAO」より抜粋。

### ・『事業継続マネジメント』

「BS25999-2 日本語訳」<sub>1</sub>、「PAS56」<sub>1</sub>、「経産省 IT 継続ガイドライン」<sub>1</sub>、「中小企業BCP策定運用指針」より抜粋。

冗長な表現・情報が多いように見受けられる。＜プロセス＞に関する解説は、不要ではないか。特にBS25999の文言は、冗長かつ曖昧な印象を受ける。

BCPやBCMといった全般的な用語については、標準化分科会にて検討されるべき項目である。

### ・『事業継続計画』

「PAS56」<sub>1</sub>、「中小企業BCP策定運用指針」より抜粋。

### ・『目標復旧時間（RTO）』

「経産省 IT 継続ガイドライン」<sub>1</sub>、「ITIL（V3 対応版）」<sub>1</sub>、「中小企業BCP策定運用指針」より抜粋。

RTOを＜目標＞と訳されているが、＜計画実行時に達成可能な時間＞という定義とするべきでは。

### ・『目標復旧ポイント（RPO）』

「経産省 IT 継続ガイドライン」<sub>1</sub>、「ITIL（V3 対応版）」より抜粋。

### ・『目標復旧ポイント（RPO）』

「経産省 IT 継続ガイドライン」<sub>1</sub>、「ITIL（V3 対応版）」より抜粋。

### ・『目標復旧レベル（RPL）』

「経産省 IT 継続ガイドライン」より抜粋。

曖昧さを孕んでいるのでは。

時間を追って段階的にセットされる場合もある。

総務省では、この用語が入れ込まれる可能性がある。

RTOの定義との整合性が取れていないのでは。

- ・『目標レベル』  
「東京都政のBC」より抜粋。
- ・『最大許容停止時間』  
「東京都政のBC」、「BS25999」より抜粋。

(3) 訓練に関わるアンケートについて：土橋様（みずほ情報総研）

- ・目的について  
各社で多様に実施されている訓練について、まずは状況を整理するために作成。  
欠席されているメンバーにも配布・回収予定。(12月中)  
ボランティアで2、3社から発表もらう機会を持ちたい。(1月中)  
1月中旬にITBO会員に配布し、3月までに結果集計を想定。  
社としては実施しているが自分は参加していない場合、どこまで記入するのか。  
分からない場合という回答も想定に入れた選択とする。
- ・「全般」について  
「2. 訓練に係る以下の用語を社内や客先で使用したことがありますか?(複数回答可)」は、用語の説明はせず、その用語で実施したことがあるか無いか、で回答もらう想定。  
訓練の対象範囲をどこまで広げるか。防災訓練以降の作業は、すべてBCP/BCMの対象として考えている事例もある。どこまでやっているかについては、後ろのアンケート結果から分析可能と想定。
- ・「対応組織の訓練」について  
この時点では特になし。
- ・「安否確認訓練」について  
この時点では特になし。
- ・「出勤・帰宅の訓練」について  
この時点では特になし。
- ・「システムのDRP訓練」について  
データのみ保管の場合でも、システムの訓練をしている場合が有り得る。  
<DRP> という用語ではなく、「システムの災害復旧訓練」といった表現が良いのでは。  
災対側に切り替えた際に、災対側で業務を稼働されるといったケースについても集計できた方が良いのでは。
- ・「バックアップオフィスの訓練」について  
<バックアップオフィス> の定義としては、災害対策本部とは別個だとして、社員全員なのかどうかといった議論もあるのでは。  
BCPが策定されていれば、どの社員が必要かは定義されているものと想定している。  
「2. バックアップオフィスはどのような形態で確保していますか？」については、<その他>の選択肢もあった方が良いのでは。

どこまで含めて考えるべきか、絞っておいた方が良いように思われる。目的が初動対応なのか、業務の復旧作業なのか、復旧後の業務のためなのか。初動の対策本部は含めない方が良いと思われる。

在宅勤務についての扱いについて、何かしら含めておいた方が良いのでは。

(4) 事業継続とクラウド・コンピューティングについて：羽石様（日立電子サービス）

- ・信頼性・可用性、パフォーマンス、バックアップ・災害対策について不安をもたれている。
- ・クラウド・コンピューティングを選択している時点で、クリティカルな業務は対象となっていないケースが多い。
- ・現時点では、運用サービスをメインの内容としている。
- ・事業継続という観点で、安否確認をクラウド・コンピューティングにするメリットは何か。

リソースが平常時に遊んでいるため、使用した分だけコストिंगできるという点のメリットを想定している。

- ・サービスレベルという観点で、事業継続の観点と齟齬は無いのか。

拠点を2箇所にするなどサービス内容による。

- ・被災時の通信回線の遮断も、クラウド・コンピューティングの場合のリスクとして挙げられる。
- ・法律的にデータが国外にある場合は、問題が生じる可能性がある。
- ・事業継続についての責任の所在が明確になるという点では、利用側のメリットと成り得る。
- ・データの分散バックアップもクラウド・コンピューティングとして語られるかもしれない。

(5) 次回研究会でのプレゼンテーマは新型インフルエンザ研究会との意見交換を予定。

(6) 次回研究会の開催予定

12月3日(木) 16:00~(BCAO 虎ノ門オフィス)

( 7 ) 第 10 回研究会出席者一覧

No,	氏名	会社名
1	大塚 純一	日本アイ・ピー・エム株式会社
2	関山 雄介	大成建設株式会社
3	伊藤 高信	TeleContinuity, Inc
4	伊藤 豊	中部日本電気ソフトウェア株式会社
5	衣笠 宗彦	株式会社モア・イフェクト
6	杉野 弘典	株式会社パスコ
7	土橋 篤	みずほ情報総研
8	間 博之	富士通エフ・アイ・ピー株式会社
9	羽石 将士	株式会社 日立製作所
10	山下 晋也	日本アイ・ピー・エム株式会社
11	吉川 明人	NECネクサソリューションズ
12	田畑 伸悟	日本アイ・ピー・エム株式会社
13	西出 三輝	株式会社 損保ジャパン・リスクマネジメント

以上